

2016(平成 28)年 1 月 4 日

各位

東燃ゼネラル石油株式会社
問合わせ先:
EMG マーケティング合同会社
広報渉外統括部
TEL: 03-6713-4400

本日、2016(平成 28)年の始業日を迎え、東燃ゼネラル石油(株)代表取締役社長 武藤潤より、従業員に向けて、以下要旨にて年頭所感を表明しましたのでお知らせします。

2016 年 社長年頭挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は、中期経営計画で掲げた「石油・石油化学といった私たちのコアビジネスの強化」と、「私たちの強みを活かした成長戦略の展開」に邁進した一年でした。

会社を取り巻く事業環境が厳しい中で、一人一人が、それぞれの業務に誠心誠意努めていただいたことに感謝します。

【昨年の取り組み】

昨年を改めて振り返ってみますと、先ず安全面では、堺工場、和歌山工場の大型定期修理工事を、大きな事故もなく休業災害ゼロで完遂できました。引き続き、油断、慢心することなく、グループをあげて安全操業に取り組んでいかねばなりません。

「コアビジネスの強化」では、これまで取り組んできた活動が大きく進展した 1 年になりました。全社最適を追求した IBT(Integrated Business Team)による部門横断的な取り組み、セブン-イレブン複合店は 120 店に増加、千葉地区、川崎地区における他社との協業、LP ガス統合元売会社ジクシス(株)の発足、鶴見潤滑油工場におけるコスモ石油潤滑油製品の受託製造開始、などが挙げられます。

次に「成長戦略の展開」について振り返ってみます。電力事業では、清水の天然ガス発電計画や千葉の石炭発電計画を発表し、その実現に向けての取り組みが本格化しました。本年 4 月の電力市場の完全自由化に備えて、電力小売事業者の登録も行い、発電から販売いたるサプライチェーン全体でのビジネスモデルの構築に取り組んでいます。海外事業においては、オーストラリアに合弁会社を設立し、ターミナル建設と販売ネットワークの構築を柱とする事業をすすめています。

このように昨年は、安全操業を前提にコアビジネスの強化、成長戦略の展開のそれぞれの面で、着実な進展をみせた一年でした。皆さんのご努力に、改めて感謝します。

【JX ホールディングス(株)との経営統合について】

昨年 12 月 3 日、JX ホールディングスと経営統合に向けた基本合意書を締結し、本格的な協議を開始することとなりました。新たな年の幕開けにあたり、改めて皆さんと考えを共有したいと思います。

私たち東燃ゼネラルグループは、2012年の新体制発足以降、全社一丸となって「勝ち残り」に向けて奮闘してきました。一方で、国内需要の長期的減少傾向や、原油価格を始めとする不透明な事業環境は、今後も継続すると思われます。20年、30年先という長期を見据え、どうすれば企業価値を効果的、持続的に向上させ社会的な責任を果たしていけるのか、常に思いを巡らしてきました。

そうした中、JXホールディングスとの話し合いを通じ、私たちの想いや志を共有できると確信し、長年培われた両社の有形無形の強みを結集することが、最善の選択であるとの結論に至りました。今後は、公平公正かつ対等の精神に則り経営統合に向けた検討を進めていきます。

両社が目指すのは、「経営統合により国際競争力を持ったアジア有数の総合エネルギー・資源・素材企業グループとして発展し、持続可能で活力ある経済・社会の発展に貢献すること」です。このビジョンを達成すべくゼロベースで抜本的な事業変革を行い、強い経営の実現を追求します。具体的な数値目標としては、経営統合後5年以内に単年度1,000億円以上の収益改善を掲げました。

今般策定したスローガン「考えぬく。明日^{あした}を動かす。」は、東燃ゼネラルグループらしさを端的に表しています。すなわち、「合理的に本質を考えぬく”賢明さ“と「スピード感を持って確実に行動し、未来に変化をもたらす”情熱”」こそが、私たちの大切な財産であり、私たちらしさであると言えます。そうした私たちらしさを、JXホールディングスとの経営統合でも遺憾なく発揮していきたいものです。

現時点では、経営統合は、2017年4月を予定しています。今後、両社間で 統合準備のための専任チームが順次立ち上がり、統合に向けた活動が加速していきます。皆さんにおいては、日々の大切な本業への取り組みを引き続きよろしく願います。安全操業、高い企業倫理に支えられた経営基盤をしっかりと守り、我々の強みを更に磨き上げるよう努めてください。

2016年を輝かしい未来に向けた新たなスタートの年にすることを共に誓い、年頭の挨拶といたします。

2016年1月4日

東燃ゼネラル石油株式会社
代表取締役社長 武藤 潤